



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 99 号

2012.4.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- 一開館日について
- 一スタッフ退職のお知らせ
- 一原稿の募集について

活動報告

- 一早春のトレッキング

観察会案内

- 一山焼き後の雲月山植物観察会
- 一霧ヶ谷湿原の整備
- 一カスミサンショウウオの産卵調査

お し ら せ

●開館日についてのお知らせ

高原の自然館の開館日が近づいてきました。今年も多くの方々のご来館をお待ちしております。

開館期間：4月25日～11月25日

開館時間：10:00～15:00

休館日：毎週火曜日

●スタッフ退職のお知らせ

2011年5月1日から高原の自然館に勤務していた有光真教が2012年3月31日をもちまして退職します。本人よりのメッセージです。

- ・約1年間多くの方にお世話になり、またご迷惑をおかけしました。ここで学んだ事をこれからの人生に活かしたいと思います。また機会を見つけて八幡を訪れますので、その時はどうぞよろしく願います。

●「苅尾電波塔 100 号」の原稿を募集しています

2004年1月の第1号の発行から8年が経ち、次号で、苅尾電波塔は発行第100号となります。それを記念し、次の通り記事を募集します。苅尾電波塔100号をみなさんのメッセージで飾って下さい。ペンネームでもOKです。原稿をおよせいただいた方には、芸北の自然を切り取ったポストカードを進呈いたします。

[募集内容]

- ・苅尾電波塔の感想
- ・西中国山地自然史研究会の活動に関する感想、要望

- ・写真や俳句
- ・スタッフへのメッセージ

[投稿方法]

郵便・メール・FAXにて受け付けています。

郵便：〒731-2323

広島県山県郡北広島町川小田75

高原の自然館

FAX：(0826) 35-0386

「高原の自然館宛」と書いて下さい。

mail：staff@shizenkan.info

※おあずかりした写真・原稿の返却はいたしませんのでご了承下さい。

お問い合わせ：080-6334-8601

観 察 会 報 告

●早春のトレッキング

開催日時：2012年3月18日（日） 10:00

講師：上野吉雄

今年度最後の観察会となる「早春のトレッキング」が行われました。霧雨が降る中、高原の自然館に16名の参加者が集合し、講師の上野先生から出発前のお話を聞き、千町原に向けて出発しました。積雪は50cmほどで、木々の根元では色々な形の根開きが見られました。雪が解けた地面には溝のような跡が見つかりました。この溝はハタネズミが掘ったもので、雪と地面の間を掘り進み、草の根などを食べているそうです。自然館の裏手にあるパークゴルフ場の片隅では、タヌキが一ヶ所に多数のフンをしていました。これをタメフンと言うそうです。「タヌキは哺乳類の中でもコミュニケーションが発達している。タメフンもその手段の1つであり、自分の存在を知らせるために同じ場所にフンをする」と、解説されました。おーいの丘までの道では、常緑樹であるエゾユズリハがその葉を生き生きと広げていました。それとは反対に、前回の観察会ではよく見かけた、カンボクやツルウメモドキなどの実は目に見えて減っていました。食べる物が豊富にある環境では、それぞれ好みの物を優先して食べているのかな、と思いました。木々の間からはシジュウカラやコゲラの鳴き声が聞こえてきました。丘の麓から千町原では雪解け水が一ヶ所に集まって湿地になっている場所がありました。「ここは去年の秋の保全活動で手を入れた場所で、湿地に戻ったことでこのような場所を好む鳥が帰ってくるだろう」と、上野先生は話されました。湿地の中では、アケボノソウの根生葉を見つけました。また枝をかじった食痕や、橙色をした尿等のウサギの痕跡が見つかりました。千町原には餌となる低木が多数あり、近くには身を隠しやすい場所も多いためウサギが活動しやすい場所ということがわかります。他にも寒さから実を守る為に枝を真っ赤に染めたミズキや、冬でも葉を落とさないカシワ、鳥が好んで実を食べるキハダなどをみる事が出来ました。雪の積もる千町原ですが、目を向ければ少しずつ春の兆しが見えてきていることを感じられた観察会になりました。[ありみつまさかず]



駐車場前の様子。植木達が思い思いの形に根開きをしている。



煙る千町原へ向かう。普段とは違う景色に、参加者から感嘆の声が聞こえた。



あちこちに散らばっていたウサギの毛。



カンボクに成った水滴の実。



一周して駐車場へ。出発前と比べて格段に霧が濃くなっていた。



雪解け水でできた湿地を歩く。ここでもかんじきは強い味方になる。



山際に立っていたミズメ。厳しい寒さを乗り越えたその枝は鮮やかな赤紫に染まっていた。

【みなさんの印象に残った物】

「ハタネズミの行動が見れました。タヌキのタメフンを見ました(2)」「雪の上に色々な種が落ちていた。うさぎの尿は植物の色素」「ハタネズミの穴。飛び出してくるかなと思ったがだめだった」「残雪の多さ。霧の風景」「雨が面白いです。カンボクの実やキハダの実がにがいですネ」「話を聞き自然に触れる事は良いと思います」「雪の中で動植物の冬ありかたを教えてくださいだきよく判りました」「うさぎのふんが多く飛びはねてる様を想像して楽しんだ(3)」「残雪を踏みしめて歩く楽しみ」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「今日は天気もギリギリもててガスの中きれいな風景でした(2)」「もう少し参加者が多ければと思った」「大勢の参加で楽しかったです。」「寒いかと思ったが、風もなく良かった。雨が少し残念」「鳥やケモノ足跡が少ないのが残念ですが来年も又来ます(2)」「カンボク等の実がたくさん落ちていたことなど」「あいにくのお天気ではあったが大変楽しかったです(2)」「やはり少し春を感じた」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 山焼き後の雲月山植物観察会

開催日時：2012年4月21日（土）9:30
集合場所：雲月ふれあいセンター（雲月小学校近く）
講師：大竹邦暁、佐久間智子
準備：基本セット、弁当
定員数：30名
参加費：一般 =300円
賛助会員 =100円
正会員・中学生以下 = 無料

山焼きから1週間。真っ黒になった雲月山の表情に、どんな変化があるのでしょうか？春の植物はどんな姿をして出迎えてくれるのでしょうか？ゆっくり山を歩きながら、じっくり観察しましょう。今回は登山前に座学を行います。下山は午後になりますので、お弁当の準備をお願いします。

● 霧ヶ谷湿原の整備

開催日時：2012年4月22日（日）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：八幡湿原自然再生協議会
準備：作業セット、弁当
定員数：30名
参加費：200円

八幡湿原自然再生協議会の委員からの呼びかけで始まった霧ヶ谷湿原の整備を今年も行います。低木を除去することで湿原の植物の保護、観察道の確保ができます。みんなでひと汗かいて、散策シーズンを迎えましょう。

● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2012年4月29日（日）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：内藤順一
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般 =300円
賛助会員 =100円
正会員・中学生以下 = 無料

春一番の調査はカスミサンショウウオやカエル類の産卵調査から始めましょう。班にわかれ霧ヶ谷湿原の中を歩き、導水路や湿地を見て卵塊や卵のうの数をカウントします。お子さんでも楽しめる調査です。長靴など水辺を歩くことのできる服装でお越し下さい。

※観察会日程の訂正について
先月号の苅尾電波塔にて間違いがありました。訂正してお詫び申し上げます。
誤：11月10日 ゴギの観察会
正：11月11日 ゴギの観察会



先月はつばみだったマンサクも満開の時期を迎えました。それに呼応するようにオウレンも白い花で春を告げています。開花中に雪化粧を施す日もありましたが、雪に負けずに咲いている姿は生命の強さを伝えているようでした。高原の自然館では、小さなクモがレンガの上で気持ち良さそうに日向ぼっこをしているところを見かけました。大小様々な春を感じる出来事を、たくさん発見し触れ合っていきたいですね。（ありみつ）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info